

vol. 2334

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

●大分高教組 第117回定期大会

大分高教組 第117回定期大会

と き : 6月28日(土) ところ : 大分県教育会館多目的ホール

高教組第117回定期大会を実施しました。県教委がすすめる進学に特化した遠隔授業や給特法の問題、働き方改革の現状などについて、活発な討論が行われました。各議案は賛成多数で全て成立し、2025年度の運動方針を確立しました。

丹野久日教組中央執行副委員長をはじめ、23人の来賓をお招きし、9時30分に開

会しました。福田洋平副委員長の開会宣言に続き、議長団に田尻洋佑さん(中津支部・中津南)、佐藤和洋さん(国速杵支部・杵築)、長井剛さん(大分中央支部・爽風館定時制)、議事運営委員に木部武志さん(大分西部支部・大分西)、堀尾里加さん(現業職組・新生支援)、佐藤忠夫さん(宇高支部・高田)、泊り由美子さん(久大支部・日田支援)、石川明德さん(佐伯支部・佐伯鶴城)を選出し、議事に入りました。

議運 : 前列左から 木部さん、泊りさん、後列左から 堀尾さん、石川さん、佐藤さん

議長団 : 左から 長井さん、田尻さん、佐藤さん

執行委員長あいさつ(骨子)

大分高教組第117回定期大会の開催にあたって、執行委員会を代表してごあいさつ申し上げます。

敗戦被爆から80年を迎えました。「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンに結集するわたしたちは、戦争体験者がきわめて少なくなった今、将来的にどう継続して反戦平和のとりくみをつないでゆくのかが問われています。今年5月の沖縄平和行進で、保育園児から「がんばれ、がんばれ」という声援を受けながら、30年以上前、はじめて参加した沖縄平和行進を思い出していました。畑の中の道を歩いていると、道ばたの家の縁側で腰の曲がったおばあが行進団にずっと手を振っていました。おそらく戦争体験者であつたらうおばあさんの思いを、無邪気に声をかけてくれる保育園児の世代にどうつなげていくかが課題です。

ロシアとイスラエルの侵略行為に終わりがみえません。またイスラエルは、他国への攻撃を繰り返しています。非業の死を遂げたご遺体や瓦礫と化した建物などが、毎日のようにニュース映像で流れています。戦闘の即時停止を求め国際社会は一丸となって動かなければなりません。緊迫する国際情勢を受け、国を守るためには武力が必要だという考え方を持つ人々が活発に動いています。歴史の授業で「武力で国は守れない。戦争をおこさない外交努力こそ重要だ」と説いた時、「でも外国が攻めてきたらどうするんですか」という生徒はこれまで何人もいました。現場を離れた私には想像するしかありませんが、最近の風潮では「日本を攻めようとする敵国には先制攻撃すべきではありませんか」と生徒もいるのではないのでしょうか。従来は極端な意見とみなされていた言説が、一見普通の人々か

ら出始めています。大変危険な状況の中にありますが、私たちは日本は2度と戦争をしないのだという戦争体験者の思いをしっかりと受け継ぎ、反戦平和のとりくみを進めましょう。

6月11日に成立した給特法等の改正法案は、残念ながら、教員に「時間外勤務はない」と定めた給特法の根本的な考えを変えることはできませんでした。教職調整額は少しずつ引き上げられますが、一方で主務教諭職が新設されるなど働き方改革の実現にはほど遠い内容です。しかしながら制定から50年間全く変わらなかった給特法がほんの僅かであれ修正されたことを将来の廃止にむけたとりくみにつなげればなりません。

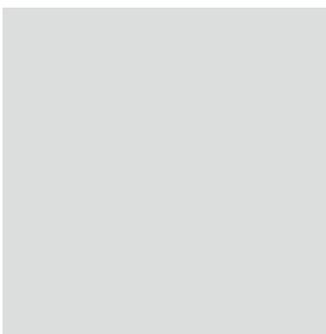
また、定年引き上げが年次進行している中であって、多くの学校で60歳を超えた職員が現場を支えているという現状から目を背けることはできません。定年引き上げは致し方ありませんが、従来から組合が主張している再雇用教職員の定数枠外にとりくみ、偏った年齢構成を解消し、また高齢層も余裕を持って働けるような職場づくりを求めていかねばなりません。

公立高校の大幅な入学定員割れが問題になって数年経ちますが、来年度は私立高校への授業料助成が拡大する方向であるため、公立高校の定員割れ問題は一層深刻化することが予想されます。普通科全県一通学区制について私たちはかねてからその問題点を指摘してきましたが、県教委が招集した通学区域制度検証委員会は継続を表明、さらには高校入試における併願制にすら言及しています。進学に特化した遠隔配信授業も加えて、そこに現場の意見はどれだけ反映されているのでしょうか。小学校で年度進行している35人学級は中学までは年次進行できそうですが高校はどうでしょうか。部活動の地域移行についても、高校での改革の必要性に言及されているだけで、具体的な進捗はありません。これらの問題解決には社会的な意識改革が必要です。私たちの「働き方改革」は、現場の教職員と管理職、そして教職員組合と教育委員会の交渉だけで終わる話ではなく、社会全体の問題として広がらなくては解決できない課題となっています。

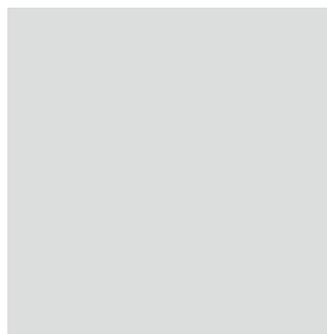
さて、7月には参議院議員選挙が行われます。残念ながら昨年の総選挙では、全国的に吹いた自公政権への逆風を大分では選挙結果に反映できませんでした。今回はその反省と、また2年前の参院補選で341票差で敗れた悔しさを忘れず「吉田ただとも」必勝に向けとりくみを進めましょう。教育問題は、国政の他の分野と異なり、専門外であっても容易に意見をいえる分野です。給特法廃止、そして学校現場の働き方改革を進めるためにも、比例区では現場教職員の経験を持つ「みずおか俊一」の勝利に向け力を合わせましょう。参院選まであと1ヶ月を切りました、「吉田ただとも」と「みずおか俊一」を、私たちの代表として国会に送り返すため組織の全力を挙げましょう。

それでは、限られた時間ではありますが代議員の皆さんの真摯な討論を期待して、執行委員会を代表してのあいさついたします。

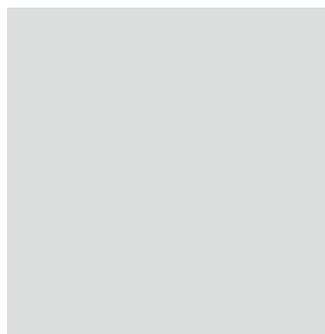
ご挨拶をいただいたご来賓の方々 (挨拶順)



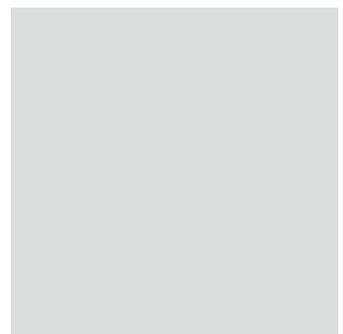
古賀千景 参議院議員



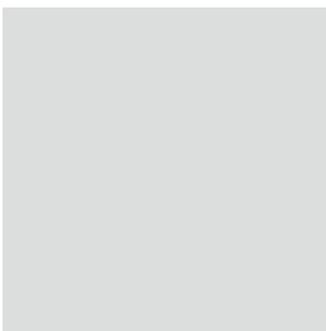
吉田忠智 立憲民主党大分県
総支部連合会代表



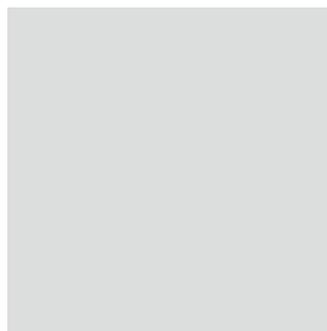
丹野 久 日本教職員組合
中央執行副委員長



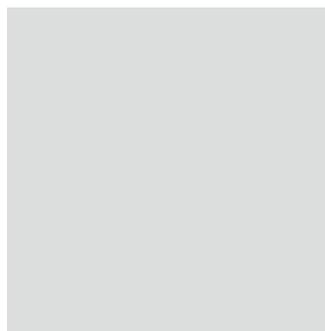
山田雅文 大分県教育委員会
教育長



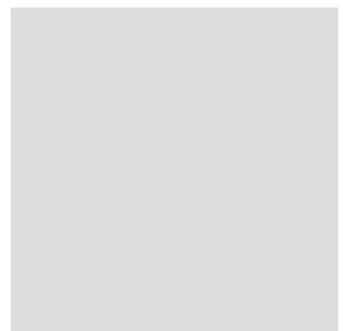
吉川 元 衆議院議員



佐藤俊生 大分県平和運動セン
ター事務局長



則松佳子 日本労働組合総連合会
副事務局長 (高教組特別執行委員)



吉良州司 衆議院議員

御来賓の方々 (敬称略)

丹野 久 日本教職員組合中央執行副委員長
山田 雅文 大分県教育委員会教育長
佐藤 俊生 大分県平和運動センター事務局長
吉川 元 衆議院議員
吉良 州司 衆議院議員
古賀 千景 参議院議員
吉田 忠智 立憲民主党大分県総支部連合会代表
馬場 徳明 社会民主党大分県連合代表
高野 博幸 大分市議会議員
佐藤 真人 大分県高等学校PTA連合会副会長
迫 圭吾 大分県教職員組合執行委員長
宗安 勝敏 大分県教育会館理事長

足立 哲範 大分県人権・部落差別解消教育研究協議会
麻生 雅晴 大分県労働者福祉協議会専務理事
岡部 勝也 九州労働金庫大分県本部本部長
小畠 三利 こくみん共済C O O P 大分推進本部本部長
松山 照夫 部落解放同盟大分県連合会財務委員長
白 一秀 在日本朝鮮人総聯合会大分県本部委員長
近藤 直美 教職員共済生活協同組合大分県事業所所長
河野 宏明 明治安田生命保険相互会社法人営業部長
梶原 悟 大分県高等学校退職教職員協議会会長
瀬尾 彰一 大分県高等学校生活協同組合専務理事
則松 佳子 大分県高等学校教職員組合特別執行委員

質疑応答・意見・討論 (要旨抜粋)

第2号議案～5号議案に対する質疑応答

■ 質疑

《第4号議案 2025年度運動方針(案)に関する件》

5 労働基本権確立 職場の民主化のとりくみ

もう：衛生管理者の資格取得が業務の多忙化の一因となっている。各分会から出さず、外部のリソースにゆだねるなどできないか。

回答：衛生管理者は現場から出さなければならない。組合としては、現場での発言力を強め、職場の民主化につながるものなので、分会それぞれの事情を考えながら、無理のない範囲で出してもらえれば。

玖珠美山：部活動の適正化について、落としどころをどう考えているのか。また、高校入試の問題が長文化していることに対し、県教委に進言できないか。

回答：部活動の問題は根深く、幅広い問題である。現状での回答は難しいが、義務制の地域移行は進んでいるので、高校も適正化に取り組んでいきたい。高校入試については、子どもの学習離れにつながらないように、県教委への申し入れを行っていく。

■ 意見・討論

《第3・4号議案》

1 民主教育を守り発展させるとりくみ

大分西：遠隔授業について、配信者の肖像権は大丈夫なのか。また、勤務形態も現場と異なるので、少なくとも事前周知があったほうがよかったのでは。また、全県一区については地域の方々にアンケートをとっていないと聞いている。県教委は、「地域と共にある」

と言うのであれば、アンケートをとるべきであった。

定通：通信制高校の現在のスクーリングのやり方も限界にきている。遠隔授業をするのなら、難関校をめざすのではなく、不登校生徒に対してまとめて対応するなどの新しい大分方式をつくってほしい。

日田：遠隔授業について、準備だけでなく、調査が次々と来たり他県からの視察も来たりするので対応が大変である。現場が望んでいる事業ではないが、県教委は「各校が望んで実施し、学校の特色としている」という設定を求めている。また、遠隔配信センターに異動させられた先生方が矢面に立たされている状況はいかがなものか。

玖珠美山：大切な先生方・県の予算だけでなく、私たちの貴重な時間なども遠隔授業に取られている。本当に困っている生徒に対して、人・お金・時間が使われるべきである。

別府鶴見丘：遠隔授業のせいで、本来学校の特色を示すはずのキュラム編成権が奪われている。県がそれを強制するのは本当におかしいことだと感じる。

2 教育条件整備 定数増のとりくみ

大分西：教育DXについて、人をつけないので、すべてが情報科の教員任せになっている。今後、何か新規事業をするなら必ず人をつけてほしい。また、機材の導入は学校事情に合わせて丁寧に行ってほしい。DXで1,000万円の予算が県についているはずである。それがどこに行ったのかがよく分からない。適正な予算執行を県に求めたい。

3 賃金引き上げ 生活向上のとりくみ

定通：60歳以上の賃金が7割に抑えられることで、モチベーションが下がっている。賃金だけでなく、今までの

キャリアを活かせるような労働環境の整備を求めたい。

4 平和と民主主義を守り発展させるとりくみ

宇佐支援：高校生平和大使に14人の応募、選考会に12人が来た。昨年の大使花崎さんがアルゲリッチ音楽祭で、平和アピールをするなど、意義あるとりくみができている。今後も活動の応援をお願いしたい。

5 労働基本権確立 職場の民主化のとりくみ

玖珠美山：短年での異動、希望しない異動が続いている。人事調書に部活動の記入欄があり、ルールを妨げるものとなっているのではないかと。また、主幹教諭が短年で異動するので、学校としての積み上げができない。

大分雄城台：高校入試当日、総務委員は朝7時に出勤し、勤務時間内に業務が終わらないことが当たり前になっている。県教委は7時に来ることは認識しているはずである。「おかしいことはおかしい」としっかり言っていきたい。また、保護者の都合により土日に三者面談をすることが多いが、学校によっては代休を取れるところもあるようだ。しっかりと割振を要求していきたい。

6 組織を強化・拡大し、運動を前進させるとりくみ

大分西：支部での役決めが負担になり、組合を去った仲間がいる。どこの支部も人が足りないのでは、やっていけない

ことはしないといけないが、お互い様の気持ちで、柔軟な対応をしてほしい。

若い人にもっと教研活動を知ってもらいたいが、テーマ設定が難しいのではないかと。今年大分西部は若い人に「何が聞きたい」と聞いてみて、そのテーマで支部教研を行う予定である。

総括討論

玖珠美山：遠隔授業は生徒から「賢い生徒が集まっている」との声が聞こえた。固定観念を植え付けているところに危機を感じる。

働き方改革について、教職員の抜本的な意識改革の必要性を感じる。「生徒のため」が本当に「生徒のため」なのか考えなければならない。

もう：生徒数が減り、1対1の授業が当たり前になった。オンライン授業も行われている。特性のある生徒にこそ遠隔授業が必要なのではないかと。

玖珠美山：習熟度など、大学進学を目指す生徒にお金をかけるやり方は違うのではないかと。すべての生徒の学びに結びつくお金の使い方を考えるべきである。

中津北：とにかく毎日が忙しく、目の前のことに精いっぱいである。不登校等の生徒に対し、なかなか時間がとれない。そんな中でも、議論できる職場でありたいと思う。

定通：通信制は毎年200人の生徒が来て、180人が卒業する。それは悪い事ではないが、「入学した学校で卒業したかった」という卒業生の声を聞く。「通信制があるよ」と簡単に言うのはなしでお願いしたい。

全国定通体育大会参加者旅費補助費贈呈式・職場新聞コンクール表彰式

全国定通体育大会参加者旅費補助贈呈式と職場新聞コンクール表彰式を行いました。

★全国定通体育大会参加者旅費補助贈呈式★

全国定通体育大会参加者旅費は、働きながら学ぶ生徒の実情を考えれば、県費負担であるべきと要求し続けていますが、実現していません。そこで高教組は、主任手当拠出金を財源として補助を行っています。今年度は県内の定時制・通信制全4分会へ贈呈しました。

★職場新聞コンクール★

2団体の応募がありました。組織強化の観点から、情報共有する役割は極めて大きいものがあります。来年度は参加団体が増えることを期待します。1枚でも大丈夫です。最優秀賞 日田定時制分会「共研」優秀賞 養護教諭部「養教だより」

大会スローガン、大会宣言、特別決議 採択

議事の最後に、大会スローガン、大会宣言、特別決議が、大会宣言起草委員の安倍久美子さん（事務職組・玖珠美山分会）、柴田由美子さん（大分東部支部・情報科学分会）、大久保香織さん（臼津支部・臼杵分会）、松尾真由美さん（別府支部・別府翔青分会）により提起され、賛成多数で採択されました。最後に全参加者による「団結がんばろう」で、2025年度の組合活動への決意を新たにしました。

多くの皆さんの協力で、大会は盛会のうちに終えることができました。ありがとうございました。